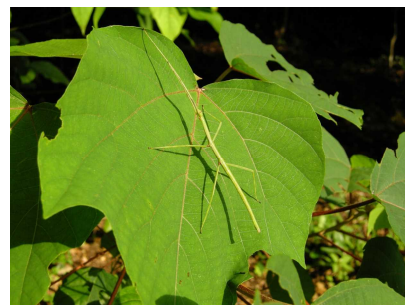


毛の効用

1. ナナフシの幼虫

なんとなく気になる昆虫です。枝に化けていることで有名ですが、エダシヤク(ガ)の幼虫(シヤクトリムシ)のように化けきっていません。新葉がかじられている木を発見したら、裏側を覗いて見ましょう。孵化(ふか)したての1齢は、鳥などに捕食される前なので

個体数も多く、同じ葉に集まっているため発見しやすいのです。遊歩道の脇にエノキの低木があり、新葉が食べられていました。かじられた傷の新しい葉をめくると3匹の幼虫がいました。威嚇でしょうか、驚くと腹部を上にも曲げたポーズをとります。さらに刺激があると、体を固めて落下してしまいます。こうなると探すことはまず不可能です。この擬死はしばらく続くからです。



ナナフシ

サクラやケヤキ、エノキなどいろいろな植物の葉を食べるようで、これらの葉で発見できます。この時は葉が交差する形で、ヤブムラサキ、ツルウメモドキ、ミツバアケビが新葉を展開していました。ツルウメモドキ、ミツバアケビには食痕がありましたが、ヤブムラサキには摂食跡がありません。ヤブムラサキの新葉には毛が多く、白く見えるほどです。ツルウメモドキ、ミツバアケビには毛はありません。これが食べない理由のようです。硬くなった葉は食べないので、ヤブムラサキも大きくなった葉は毛が少なくなっています。

2. アカメガシワの新葉

裸地ができるとすぐ生えてくる木です。芽出しの若い葉が赤いので、このようによばれています。カシワとは関係ありません。皿代わりになる大きな葉になりますので、これがカシワとつけられた由来でしょう。

芽出し時には、葉の上面に赤い星状毛がビッシリついています。この毛の役割は、赤で紫外線を防ぎ、昆虫による摂食を防いでいるといわれています。日照の強いところほど赤みが強いのもその証拠でしょう。したがって葉が成長し、葉緑体が完成して光を利用できるようになると、毛は脱落して緑になってきます。

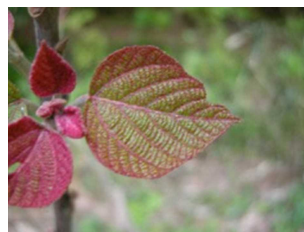
赤みが減ってもまだ葉が柔らかく、昆虫に食べられます。そこで、毛が脱落した後は、葉身の葉柄(ようへい)に近い部分にある2個の花外蜜腺が蜜の分泌を始めます。アリをよび、他の昆虫を追い払ってもらうためです。葉が十分硬くなると蜜の分泌をやめます。必要な時に必要な仕組みを働かせる。植物の巧妙な作戦です。



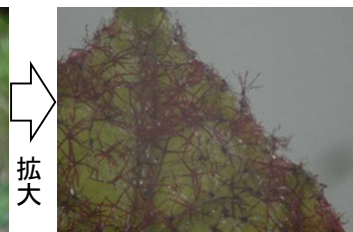
初期



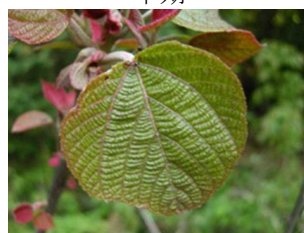
赤い星状毛がびっしり



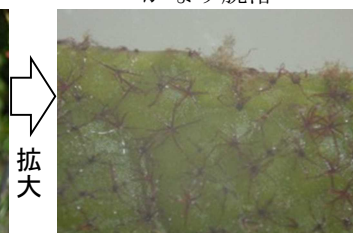
中期



かなり脱落



後期



ほとんど脱落